



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. 京都大学言語学研究 2005, 24

ISSUE DATE:

2005-12-24

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/87860>

RIGHT:

京都大学言語学研究

第 24 号

論文

敦煌莫高窟北区 B157 窟出土回鹘文『阿毗达磨俱舍论实义疏』残叶研究 阿依达尔 米尔卡马力	1
Phonemic Sketch of Dohoi/Kadorih (Austronesian: Upper Reaches of Kahayan River in Kalimantan, Indonesia)	Kazuya INAGAKI 15
Einige Bemerkungen über den Ursprung des <i>creaky</i> Tons im Tibetischen von Sharkhog [Songpan-Jiuzhaigou]	Hiroyuki SUZUKI 45
テイル形の質量名詞的な性質	大浦 真 59
日本語接続詞の構成性／非構成性 — ソシテ・ソレデ・ダカラについて —	田村 早苗 85
『漢回合璧』新ウイグル語の表記に用いられた漢語音について	西村 多恵 117
チャック語の資料と文法解釈 — 「虎の夢」 —	藤原 敬介 131
エヴェンキ語、ヤクート語及びブリヤート語における 人称接辞を伴う副動詞形について	松本 亮 153
バスク語オイアルツン方言の助動詞組織に関する試論	吉田 浩美 185
研究ノート	
漢語對基諾語的影響 — 語法方面 —	林 範彦 211
京都大学言語学懇話会 2004-2005 年度活動報告	221

2005

京都大学
大学院文学研究科
言語学研究室

「京都大学言語学研究」(25号)の原稿募集について

京都大学言語学研究(25号)の原稿を募集します。投稿される方は次の執筆要項によりご提出下さい。

執筆要項

1. 提出原稿

- 原稿種別は以下の通りとする。
研究論文、研究ノート、懇話会要旨
- 完全原稿を提出すること。
- 別途用紙に、以下を明記して添付すること。
 - － 題目
 - － 執筆者名、ふりがな
 - － 原稿種別
 - － ページ数(要旨を含めない)
 - － 所属機関
 - － 連絡先(郵便番号、住所、電話・ファクス番号、e-mail アドレス)

2. 研究論文

- **原稿枚数** 原則として、図表などを含め A4 版用紙 30 枚以内とする。これを超える原稿についても投稿を受け付けるが、採用された場合でも、掲載が 26 号以降になることがある。
- **文字のサイズ** 日本語論文は明朝体 12 ポイント(1 行 37 字程度)・1 ページ 35 行程度、欧文論文は 12 ポイント・1 ページ 35 行程度(1.5 スペース程度)とする。
- **原稿の余白設定等** 各ページのマージンを上下左右: 30、35、30、30mm とる。ページ番号は印字せず、右下隅に鉛筆で記入する。
- **タイトルと氏名** 1 ページ目のはじめにタイトルと氏名(中央揃え)を入れること。タイトルは 14 ポイント太字とする。なお、タイトルの上部には 2 行分の余白を設け、タイトルと氏名の間に 1 行分、氏名と本文のはじまりとの間に 2 行分の余白を設ける。
- **注** 注は通し番号をつけ、各ページの末尾におく。文字サイズは 10 から 11 ポイントとすることが望ましい。
- **要旨** A4 版用紙 1 枚の要旨を付ける。要旨は本文と異なる言語で書くのが望ましい。原稿のスタイルやタイトルと氏名の体裁については上記に準ずる。要旨文のはじまりの左上部に「要旨」「Abstract」等と太字で表記し、要旨文のはじまりとの間に 1 行分の余白を設けること。

- 採否 編集委員会で決定し、原稿受付より二ヶ月以内に採否を連絡する。
- 原稿締切日 原稿は随時受け付ける。ただし、2006年7月31日を過ぎて到着した論文については、採用された場合第25号ではなく、それ以降の号への掲載とする。

3. 研究ノート

原稿枚数、体裁、採否、原稿締切日等は研究論文に準ずる。

4. 懇話会要旨

- 「京都大学言語学懇話会」での発表の要旨を掲載する。原稿枚数は、A4版用紙1枚とする。
- 体裁は、論文に準ずる。
- 原稿締切日は、発表当日とする。

5. 連絡先

投稿は下記にて受け付けます。電子メールでの投稿も可能ですので、ご相談下さい。

〒606-8501 京都市左京区吉田本町京都大学大学院文学研究科言語学研究室

電話 / Fax: (075)753-2827

電子メール: KULR-hensyuu@ling.bun.kyoto-u.ac.jp

6. その他

- 提出いただいた連絡先は、編集に必要な場合にのみ使用いたします。
- 採用論文については後日、電子媒体（フロッピーディスク、MOディスク、CD-R など）でも原稿を提出いただきます。
- 採用された原稿及びフロッピーディスク類は原則として返却いたしません。
- \LaTeX で執筆する場合は、上記の書式に合わせたスタイルファイルを用意していますので、編集委員まで御連絡下さい。
- 抜き刷りは50部とし、印刷費用は原則として投稿者にご負担いただきます。また、希望される方には実費にて増刷を行うことができます。
- 執筆者には、掲載号を一部進呈いたします。
- 第25号は、2006年12月発行を予定しています。

編集後記

今年も無事、『京都大学言語学研究』24号発行の運びとなりました。編集作業にご尽力いただいた皆さまに、この場をお借りして厚く感謝申し上げます。

今号までの成果と反省点を踏まえ『京都大学言語学研究』をより魅力的な雑誌とすべく、すでに次号編集に向けての会合が持たれています。今後とも、暖かく見守っていただきますようお願い申し上げます。

編集委員長

『京都大学言語学研究』 第24号

Kyoto University Linguistic Research Vol. 24

2005年12月24日発行

編集委員長 倉橋農

副編集委員長 稲垣和也, 中村千衛.

編集委員 梅谷博之, エヴセーヴァ・エレナ・ヴィクトロヴナ, 金澤雄介,
川澄哲也, 川田拓也, 岸田泰浩, 嶋田珠巳, 庄垣内正弘, 白井聡子,
鈴木博之, 田窪行則, 田村早苗, 永井佳代, 西村多恵, 林範彦,
稗田乃, 藤代節, 藤原敬介, 松本亮, 藪司郎, 吉田和彦, 吉田豊.

(五十音順)

発行者 京都大学大学院文学研究科言語学研究室

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

電話: 075-753-2827

<http://ling.bun.kyoto-u.ac.jp/>

Edited by KURAHASHI Minori, INAGAKI Kazuya, NAKAMURA Chie,
UMETANI Hiroyuki, EVSEEVA Elena Viktorovna, KANAZAWA Yusuke,
KAWASUMI Tetsuya, KAWADA Takuya, KISHIDA Yasuhiro, SHIMADA Tamami,
SHŌGAITO Masahiro, SHIRAI Satoko, SUZUKI Hiroyuki, TAKUBO Yukinori,
TAMURA Sanae, NAGAI Kayo, NISHIMURA Tae, HAYASHI Norihiko,
HIEDA Osamu, FUJISHIRO Setsu, HUZIWARA Keisuke, MATSUMOTO Ryo,
YABU Shiro, YOSHIDA Kazuhiko, YOSHIDA Yutaka.

Published by Department of Linguistics
Graduate School of Letters, Kyoto University
Yoshida-Honmachi, Sakyo-ku, Kyoto
606-8501 Japan

Kyoto University Linguistic Research

Vol. 24

Articles

- AYDAR Mirkamal: On the Newly unearthed Abhidharmakośabhāṣya-ṭīkā Tattvārtha
Fragments from the Northern Grottoes of Mogaoku, Dunhuang 1
- Kazuya INAGAKI: Phonemic Sketch of Dohoi/Kadorih (Austronesian:
Upper Reaches of Kahayan River in Kalimantan, Indonesia) 15
- Hiroyuki SUZUKI: Some Remarks on the Origin of the Creaky Tone
in Tibetan Sharkhog [Songpan-Jiuzhaigou] Dialect 45
- OHURA Makoto: Mass Term-like Properties of *teiru*-form 59
- Sanae TAMURA: (Non-) Compositionality of Japanese conjunctions:
Sosite, sorede, dakara 85
- Tae NISHIMURA: The Chinese Sounds used to represent the New Uighur
Sounds in 『漢回合璧』 (Han-hui he-bi) 117
- HUZIWARA Keisuke: Text and Grammatical Analysis of Cak
— “A Tiger’s Dream” — 131
- Ryo MATSUMOTO: Converbs with personal endings in Evenki, Yakut and Buryat .. 153
- YOSHIDA Hiromi: A Tentative Analysis of the Auxiliary Conjugation System
of the Oiartzun Dialect of Basque 185

Note

- HAYASHI Norihiko: Chinese Influence over Jino — grammatical borrowing — 211
- The annual report of Kyoto University Linguistic Colloquium 2004–2005 221



2005

Department of Linguistics
Graduate School of Letters
Kyoto University